

国語 第4学年 ローマ字を使いこなそう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：日常の簡単な語をローマ字で読み書きし、音と文字の対応を確かめる。ローマ字の表記と端末への入力方法は必要に応じて区別する。B(1)エの学習として、ひらがたとローマ字の対応、読み合って確かめた語、表記と入力の違いのメモ。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、自分の書いた語や文を読み返し、音と表記の対応を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：ひらがたとローマ字の対応、読み合って確かめた語、表記と入力の違いのメモを残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：英単語のつづりとローマ字を混同する、端末で変換できれば表記は何でも正しいと考える。これに対し、独自例「sora」「yama」など既習の音を教師が採用教材の表記規則で示す。ひらがたと対応させ、特殊な音は表を使って確かめる。氏名などの個人情報を外部サイトに入力しない。〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この音を表す文字は何ですか。書いた文字から元の言葉が読めますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：ひらがたとローマ字の対応、読み合って確かめた語、表記と入力の違いのメモは紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：英単語のつづりとローマ字を混同する、端末で変換できれば表記は何でも正しいと考える。独自例「sora」「yama」など既習の音を教師が採用教材の表記規則で示す。ひらがたと対応させ、特殊な音は表を使って確かめる。氏名などの個人情報を外部サイトに入力しない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この音を表す文字は何ですか。書いた文字から元の言葉が読めますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

